

# 環境共生産地 i n f o ネット

## 環境に優しい農業技術の開発

春の天候にも恵まれ、県内の農作物は順調に生育しています。今年も、各地で環境と共生する農業の取組みが始まりました。

岩手県農業研究センターでは、環境と共生する農業の取組みを支援するため、新しい技術を開発していますが、今回は、水稻有機栽培での機械除草技術について紹介します。

\*\*\*\*\*

### 水稻における固定式タイン型除草機の除草効果

水稻の有機栽培で最も難しいのが、雑草対策です。雑草は、稲の生育を妨げるだけでなく、病害虫の発生原因にもなります。これまで、様々な除草方法が試みられてきましたが、安定して雑草の発生を抑えた事例は少なく、最終的には手作業に頼らなくてはならない場合が多いのが現実です。機械による除草も広く取り入れられていますが、水稻の株間をうまく除草できる機械は少なく、大きな課題となっていました。

そこで、岩手県農業研究センターでは、北海道の畑作で使われており、株間の除草が期待できる「固定式タイン型除草機」に着目し、水稻栽培での除草効果を検証しました。

「タイン」とは、針金でできたツメのようなもので、これを引きずることで水稻は傷をつけず、株間に生えた雑草だけを浮き上らせて除草するものです(写真)。

試験の結果、田植え後7～10日に一回目、その後は7～10日間隔で2～4回除草することで、75～90%の雑草を除去できました。

また、収量も除草剤を使用した栽培の95%程度を確保できるなど、高い実用性が確認されました。

新たな機械導入が必要になることから、除草剤を使った栽培慣行栽培と比較してコストが高くなりますが、水稻の有機栽培での新技術として期待されます。

詳しくは、県農業研究センターHP (<http://www.pref.iwate.jp/~hp2088/>) →「試験研究成果」及び「研究レポート」でご覧になれます。

#### 【現地作業公開のお知らせ】

農業研究センターでは、固定式タイン型除草機による除草作業を一般に公開します。

○日時：平成21年6月11日(木)10:30～

○場所：一関市大東町大原 現地ほ場

詳細については下記までお問い合わせください。

#### 問い合わせ先

岩手県農業研究センター

プロジェクト推進室(特裁・有機担当)

TEL 0197-68-4414、 FAX 019771-1081



# 天敵昆虫利用現地研修会を開催

～一関農業改良普及センター～

一関農業改良普及センターでは、去る4月 22日、一関地域で施設なす、施設ピーマンを栽培する天敵昆虫利用農家を対象に、「天敵昆虫利用現地研修会」を開催しました。一関地域では、農作業の省力化や訪花昆虫の利用による農薬使用の制限などの理由から、いち早く天敵昆虫の利用に取り組んでいます。そこで今回は、効率的な利用に向けて放飼方法の実演を含めた研修を行いました。

はじめに当センターより、天敵を利用する目的と注意点、天敵を利用した防除の流れなどについ

ての説明と今年度実証する天敵昆虫についての紹介を行いました。

続いて天敵製剤を販売しているメーカーより、新規天敵製剤の紹介と放飼方法の実演が行われました。利用者からは放飼前薬剤の選択や放飼方法について熱心な質疑が行われ、天敵についての理解がより一層深まりました。

普及センターでは当地域における施設野菜の安定生産実現への一つの手法として、天敵昆虫の効果的な利用について今後も支援をしていきます。(普及現地情報より)



\*\*\*\*\*

## シリーズ これってどんな意味？

このコーナーでは、環境と共生する産地づくり基本計画にてでくる様々な用語等について説明していきます。

### 第7回めは「生物農薬」についてです

「生物農薬」と聞いて、生物なのに農薬？と混乱する方もいるかもしれません。生物農薬とは、病虫害や雑草の防除に使われる天敵昆虫や天敵微生物などのことです。代表的なものとしては、野菜などに発生するハダニ(害虫)を食べるカブリダニ(天敵)がありますが、この他にもテントウムシや線虫、カビや細菌など、様々なものが生物農薬として利用されています。

化学合成した農薬を使わずに病虫害を防除ができるので、有機農業や特別栽培でも広く利用されています。本号の現地情報で紹介した一関地域の取組も生物農薬を使った取組みの一つです。

有機農業

本年度も、本誌では県内で行われている「環境と共生する産地づくり」に関わる取組みを広く紹介していきます。本誌を通じて紹介したい取組みがありましたら、事務局(下記発行責任に同じ:担当 熊谷)までご連絡ください。

本年度も皆様のご協力・ご支援を、よろしくお願いします。